



ディー・エヌ・エー、横浜 DeNA ベイスターズ、 横浜スタジアムと横浜市が包括連携協定を締結

株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社横浜 DeNA ベイスターズ、株式会社横浜スタジアム（以下「DeNA グループ」）、横浜市は相互の連携を強化し、スポーツの振興と地域経済活性化等に関する包括連携協定を締結しました。

1 経緯と目的

これまで、横浜 DeNA ベイスターズ、横浜スタジアムと横浜市は市民スポーツの振興や青少年育成、横浜スタジアム周辺の活性化に取り組んできました。

このたび、（株）ディー・エヌ・エーから、所属の長距離陸上チーム「DeNA Running Club」（東京都渋谷区 総監督：瀬古利彦）について、来季から横浜をホームエリアとすることで、DeNA のスポーツ資源を集約し、横浜 DeNA ベイスターズ（横浜スタジアム）と合わせて横浜市のスポーツ振興と地域の活性化に貢献したい旨の申し出がありました。

また、DeNA グループは平成 29 年 1 月に、横浜スタジアムや「THE BAYS※1」を核として、スポーツを軸としたまちづくりを進めていく「横浜スポーツタウン構想※2」を発表しました。本市においても、市庁舎移転後の関内・関外地区のまちづくりにおいて「スポーツ・健康づくり」を重要な視点のひとつとしており、取組を強化していくことに合意しました。

なお、本協定は、球団（横浜 DeNA ベイスターズ）と球場（横浜スタジアム）が横浜を愛する皆様とともに取り組む「まちづくり」プロジェクトである「I☆(LOVE)YOKOHAMA」にちなみ、愛称を「I☆YOKOHAMA 協定」とします。

※1 THE BAYS

「スポーツ×クリエイティブ」をテーマに、ライフスタイルの提案や産業を生み出していく「創造都市・横浜」の新たな活動拠点として、横浜 DeNA ベイスターズが運営。

※2 横浜スポーツタウン構想

これまで横浜公園、横浜スタジアムを起点に進めていた「コミュニティボールパーク」化構想を、関内・関外エリアを中心とした街レベルに発展させた DeNA グループの新たな構想。（平成 29 年 1 月公表）

2 協定の概要

(1) 締結日

平成 29 年 3 月 10 日（金）

(2) 締結者（敬称略）

株式会社ディー・エヌ・エー 代表取締役社長兼 CEO

株式会社横浜 DeNA ベイスターズ 代表取締役社長

株式会社横浜スタジアム 代表取締役社長

横浜市長

守安 功

岡村 信悟

岡村 信悟

林 文子

3 「I☆YOKOHAMA 協定」の主な取組内容

① 参加型スポーツの振興に関すること

- ア 市内各区への健康づくりのため、瀬古総監督監修のランニング・ウォーキングガイドの制作に取り組みます。
- イ 子どもから大人、高齢者まで、幅広い世代が参加できるスポーツイベントを定期的に開催していきます。
(平成 29 年 1 月に共催でハマスタ駅伝を初開催)
- ウ THE BAYS を活用したイベントや新しい参加型スポーツの提案を行います。



ハマスタ駅伝の様子

② 子どもの体力向上や健全育成に関すること

- ア 横浜の未来を担う子どもたちの体力向上と、夢や感動を共有してもらうため、平成 32 年までに多くの小学校、また、幼稚園・保育所等を訪問し、野球やランニング、ダンスなどの指導を行います。
- イ DeNA グループが持つトップ選手から小中学生まで幅広い世代での指導経験や知見をもとに、小学校、中学校、高等学校の教員に対して競技指導の講習会や交流会を開催します。この講習会を通し、よりよい指導の広がりを目指しています。
- ウ 管理栄養士による栄養指導、研修などを行い、発育発達期における食事の大切さを認識する機会を設けます。
- エ 横浜 DeNA ベイスターズと小学校等給食のコラボレーションを行い、選手を身近に感じる機会を創出します。



野球教室の様子

③ 福祉や行政課題解決に関すること

- ア 横浜スタジアムで、障害者施設の手作り製品を販売します。
- イ 障害者施設への選手訪問等による共生社会の認知度向上に繋がる取組を検討していきます。
- ウ 選手・チーム肖像等の活用により、各行政施策への PR に協力いただきます。

④ 新たな人の流れ創出・まちづくりに関すること

- ア 観戦型・参加型の両側面から、市民参加型イベントやパブリックビューイング等による施設活用を含めた、新たなまちの活性化に取り組みます。
- イ 参加型スポーツを通じた、関内・関外エリアの結びつき強化や誘客に取り組みます。

⑤ 市民の健康に関すること

- ア スポーツと健康づくりなどをテーマにした市民向けのイベントやシンポジウムの開催を検討していきます。

⑥ 東京 2020 大会における横浜での競技開催を契機とした機運醸成等に関すること

- ア 東京 2020 大会の野球・ソフトボールの主会場に横浜スタジアムが決定しました。大会開催に向けた機運醸成、開催を契機としたスポーツ振興等に協力して取り組みます。

⑦ 地域経済活性化に向けた施策に関すること

- ア 「L I P. 横浜※」などに参画し、DeNA グループの持つ技術や知見を活用した新ビジネス創出により経済活性化や社会課題解決等に取り組みます。
- イ その他、DeNA グループの持つ IoT、AI 等の先端技術や知見を活用した経済活性化や社会課題解決等に取り組みます。

※ 横浜ライフイノベーションプラットフォーム：ライフサイエンス分野での産官学金連携ネットワーク

お問合せ先

| | | |
|------------------------------|--------|------------------|
| 市民局スポーツ振興課長（協定・スポーツ振興に関すること） | 直井 ユカリ | Tel 045-671-3237 |
| 都市整備局都心再生課長（まちづくりに関すること） | 村上 実 | Tel 045-671-3972 |
| 政策局共創推進課担当課長（協定の制度に関すること） | 内田 義人 | Tel 045-671-4392 |

※本件は、(株)ディー・エヌ・エー、(株)横浜 DeNA ベイスターズ、(株)横浜スタジアムと同時発表しています。